

IWA Outdoor Classics2026 の 会場レポート



見本市	展示ホール	出展者数	来場者数
狩猟用品、スポーツ射撃用品、光学機器、ナイフ、アウトドア用衣料、エアソフトガン、タクティカルギア他	8ホール： 1、2、3、3A、 3C、4、4A、5	2026年 1,050社 2025年 1,084社	2026年 25,000人 2025年 25,000人

ヨーロッパ最大規模の国際銃器見本市 IWA Outdoor Classics が、2月26日（木）～3月1日（日）にドイツのニュルンベルクで開催されました。2日間にわたる市内公共交通機関のストライキという困難な状況下でも、昨年同様、世界121ヶ国から25,000人の来場者が集まり、非常に活気のあるトレードショーとなりました。同見本市は、狩猟人口の減少や高齢化という業界の構造的な課題のため、一時、来場者数や出展者数の伸び悩みに直面しましたが、若年層やアウトドア愛好家向けのコンテンツの充実や、次世代の人材育成プログラムなどを通じて、来場者の若返りと新たなターゲット層の開拓に成功しました。



大型リュックサックやスーツケースは、X線検査機でチェック。



ゲート通過後に、チケットとパスポートの氏名を照合。来場の際は、パスポートを持参ください。



ストライキの影響を感じさせない程、会場は多くの来場者で賑わっていました。

業界関係者が感じた雰囲気の変化

今回は、「made for trade（商談のために設けられたプラットフォーム）」というテーマを掲げ、より専門的な展示構成と、業界の課題に対応する場を提供することで、業界全体をサ

ポートする姿勢を強調していました。以前の IWA は、世界各国の狩猟分野のバイヤーや、民族衣装を着用した小売店が多数来場する狩猟・銃器専門見本市でしたが、近年は狩猟・射撃スポーツ・安全保障（セキュリティ）をコアとする、より包括的なアウトドア・トレードショーへと進化しています。長年の出展者は、このような変化を新たな顧客層にアプローチできる貴重な機会として肯定的にとらえています。

近年は、Blaser, Mauser, Sauer, Zeiss, Swarovski といった銃器・光学機器メーカーが直販戦略や独自のイベントを優先し、IWA Outdoor Classics への出展を取りやめたため、狩猟分野の出展に陰りがでてきたのではという声も聴かれました。しかし、今回から、SIG SAUER や Schmeisser といった大手メーカーが復帰することが発表され、業界的にも大変大きな話題となりました。特に、6 年間ぶりの出展となるドイツの Schmeisser は、顧客の要望に応じて開発してきた AR-15 プラットフォームをはじめ、革新的な新製品を持ち込んだため、ブースは熱心な愛好家やバイヤーで、絶えず人だかりができていました。同社はドイツ内に自社工場を構え、設計から組み立てまでの一貫体制を確立し、顧客の厳しい品質基準や仕様に迅速に対応しています。このため、NATO およびドイツ軍に小火器を供給する 4 つのライセンスサプライヤーの 1 つとして世界的な名声を獲得しています。

また、例年注目を集めているチェコの CZ グループは、今年創業 90 周年を迎えます。このため、IWA Outdoor Classics にて競技用ピストルの新モデル「CZ TS 3 ORANGE」を世界初公開しました。IPSC 世界チャンピオンの Eric Grauffel 氏が、新製品の設計で重要な役割を果たしたこともあり、同モデルは見本市で発表される前から業界関係者やメディアの間で大きな話題を集めていました。さらに、伝説的な「CZ 75」の後継モデルである CZ 75 LEGEND も披露され、名門銃器メーカーとしての地位を不動なものとししました。



SIG SAUER ホール 5-380



Schmeisser ホール 4A-502



Carl Walther ホール 4A-106



Colt CZ Group ホール 3C-110



Umarex ホール 4A-105



Stage ホール 1-538

狩猟用スコープのトレンド

狩猟用スコープ市場は、デジタル化と高精度化により急速に成長しており、市場規模は2025年の78億9,000万米ドルから2034年には128億1,000万米ドルに達する見込みです。この成長市場において、特に中国メーカーが「高品質・高機能・低価格」を武器に躍進しており、欧米ブランドの強力な競合相手となっています。中国の光学・製造メーカーは、長年にわたる欧米や日本の大手メーカーのOEM/ODMを通じて、高品質な製造ノウハウと精密な技術力を蓄積してきました。特に、Shenzhen（深圳）などの製造拠点では、MIL-STD-810G（軍事レベルの環境耐久規格）に準拠した防水・耐衝撃テストを実施しているメーカーも増えています。

現在、狩猟用スコープはデジタル、スマート化へと大きく転換しています。今回の見本市でも、AI、レーザー距離計（LRF）、弾道計算機を内蔵したスマートスコープが人気を博していました。また、サーマルイメージング（熱線映像）とナイトビジョンの機能を統合し、昼夜問わず周囲の状況を把握できる複合型デバイスが主流となりつつあります。これにより、サーマルで熱源を探し、ナイトビジョンで詳細を確認するといった運用が可能となります。さらに、持ち運びやすさを維持したまま、3-18Xや4-32X、あるいはそれ以上のズーム範囲をカバーするコンパクトな製品（特にサーマルスコープやハンディ型単眼鏡）が多数登場しました。

日本では夜間狩猟が禁止されているため、夜間専用のナイトビジョンではなく、日暮れや明け方、薄暗い森の中でも鮮明に見える高性能レンズと、高精度なレティクル（照準線）を搭載したライフルスコープが主流です。しかし、認定事業者による管理捕獲の解禁や、日常生活圏に出没するクマ・イノシシの緊急捕獲において、障害物や暗闇の中でも熱源を検知して確実に獲物を特定できるサーマル製品は、安全確保の観点からも需要が急増しています。IWA Outdoor Classicsには、このような日本国内のニーズに直結する高性能なサーマル製品が一堂に会しており、現場の安全性を向上させるための具体的なツールを見極める絶好の機会となっています。

ナイフやアウトドア用品

ナイフやアウトドア用品は、小売店にとって非常に重要な分野です。これまで別々のホールに点在していたこれら出展品が、今年からハンティング関連の小物や衣料品と共にホール4に集約されました。このレイアウト変更により、小売店は製品を見比べながら、効率的に商談を行えるようになりました。さらに、新たなトレンドになりつつあるサバイバル・防災用品も同ホールに展示され、新たな来場者層を呼び込んでいました。

同ホールの中心部には「BLADE Demo Area」が設置され、ナイフの専門家やデザイナー、製造メーカーによるライブデモンストラレーションや技術解説、最新トレンドに関するトーク

ショーが行われました。また、ホール 4 のハブのような役割を果たす同エリアには、デザイン、機能性、クラフトマンシップにおいて優れたハンドメイドナイフに贈られる Knife Award（ナイフ・アワード）の受賞製品も展示されていました。これら一連の新しいレイアウトは、IWA Outdoor Classics のテーマである「Made for Trade」という方針を強化し、業界のニーズにより密接に対応するための戦略的な変更でもあります。

IWA ナイフ アワードの選考結果

EDC (Every Day Carry) 折りたたみナイフ	EDC (Every Day Carry) 固定刃ナイフ	トレードビジター賞
1 位 Laguiole en Aubrac 社 THE GATSBY	1 位 Mercury SRL 社 HAWKY	Laguiole en Aubrac 社 THE GATSBY
2 位 OTTER-Messer 社 Kumpel	2 位 Halfbreed Blades Australia 社 LFK-03 Gen-2	
3 位 Consorzio Coltellinai Maniago 社 MKM ROAR	3 位 BMC Bladeworks 社 Imp	



市場を急速に拡大しているエアソフトガンの市場動向とホール 2 の役割

エアソフトガン市場は堅調な成長が見込まれており、市場規模が 2025 年の約 23 億ドルから、2031 年までに約 40 億米ドル規模に拡大する見通しです。この世界的な需要の高まりを受け、数年前からホール 2 にエアソフトガンおよびペイントボールの専用エリアが設置されています。ホールには、プロ向けの高性能タクティカル機と、レクリエーション用のアクションスポーツ向け製品が展示され、小売業者やオンラインショップ経営者が最新のトレンドや製品を実機で確認し、目的に応じた仕入れ判断ができるようになっています。またホール壁際には、「AIRSOFT Shooting Area」が設けられ、来場者は実機を試射することができます。現在市場では、高品質なエアソフトガンや安全装備への需要が特に伸びており、製品のカスタマイズ性や耐久性が競争力の鍵となっています。

一般的に、エアソフトガン販売店は単に銃本体を売るだけでなく、サバイバルゲームに必要な装備品や周辺アイテムを幅広く取り扱う「ワンストップ・ショッピング」の傾向が強くなっています。このため、ホール 2 でエアソフトガンをチェックした訪問者が、関連アイテムやガンケースを求めて隣接するホールへ移動する流れが一般的な見学コースとなっています。エアソフトガン市場は単なる玩具の枠を超え、実銃に近いリアルさを持つ製品として、

狩猟、スポーツ射撃、アウトドア関連の国際的なビジネスにおいて重要な要素へと成長しています。



日本からの出展企業

ROCKSTEAD Corporation (ホール 4 - 258)



Kanetsune Seki (ホール 4 - 250)



Zero Plus Technology Co., Ltd

(ホール 5 - 124)

